

# 平成24年度 事業報告

自 平成24年4月01日  
至 平成25年3月31日

## I 教化事業（公益目的事業1）

### 1 青少年教化推進事業

#### （1）仏教子ども会活動の推進事業

##### ①花まつり行事の推進、助成

加盟教団及び府県地区青少年教化協議会（略称・青少協）に対して、花まつり行事の推進を図った。

##### ②成道会全国こども大会の開催推進

平成24年12月8日前後の日曜日を中心に全国約90会場で開催した。

※参加者＝約10,000名（うち児童約8,000名）

※行事＝記念式典（法要・法話など）、お楽しみ会（童話、ゲーム、映画、パネルシアター、紙芝居、人形劇）など多彩な行事が各地で開催された。

※教材助成＝成道会用リーフレット（B6判、多色刷り）、成道会ポスター（A2判、多色刷り）、シャープペンシル（読売新聞社、日本テレビ放送網からの助成品）を送付、各開催会場の責任者から参加児童に手渡された。

※後援＝読売新聞社、日本テレビ放送網

#### （2）青少年教化研修会等の開催事業

一昨年3月11日に発生した東日本大震災に際し、被災者への物心両面でのサポート、心のケアを行う人員の養成と派遣、子どもたちの心身のケアを目的とした支援活動を行うための講座を開催した。

##### ①「笑顔のコーチング」ファシリテーター養成講座開催

子どもたちの明るい未来を育むことを念頭に、周りの人を笑顔にする実践者の養成を目指す「笑顔のコーチング」ファシリテーター養成講座を、NPO法人ハロールドリームとの協働により開催した。

※日時＝平成24年11月23日（祝）

※会場＝ゲートシティ大崎 大会議室

※講師＝本間正人（NPO法人ハロードリーム実行委員会理事・代表）

※内容＝笑顔のコーチング体験、ファシリテーター養成講座 他

※参加者＝約50名

### （3）青少幼年支援ネットワーク拡充事業

#### ①青少幼年教化活動の調査・情報収集及び発信とNPO（市民団体）との活動連携

##### A) 青少幼年教化活動者の活動内容の調査、情報収集

日曜学校など青少年教化活動を行っている寺院の活動状況を、聞き取り調査した。

##### B) 不登校・ひきこもり関連団体に関する情報収集

てらネットENのネットワーク拡充に向け、不登校・ひきこもりの問題に取り組む寺院及び民間団体に関する情報収集を、対面、インターネット、電話、刊行物を通じて行った。

##### C) 仏教団体、仏教系大学サークルの情報収集と活動の連携

各仏教系大学の児童研究会などを中心に、全青協の案内、研修会の案内などを送付した。又、サークル役員と日曜学校・子ども会の新たな展開方法について検討した。

#### ②府県・地区青少年教化協議会及び活動寺院・団体等との活動連携

##### A) 「府県・地区青少年教化協議会代表者会議」の開催

本会と青少協との情報交換、教化活動の推進を図るため、代表者会議を開催した。

※日時＝平成24年2月4日（月）

※会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※テーマ＝「各青少協の活動報告、今後の各青少協の活動の活発化と継承について」

##### B) 活動助成

第9回心の平和フェスタ「ほとけさまの絵コンクール」の後援及び協賛

大阪青少年教化協議会が主催する「ほとけさまの絵コンクール」を後援し、併せて協賛した。

※公募期間＝平成24年12月～25年2月

※応募総数＝約200点

※選考委員＝久保田聖淳氏ほか

※入賞＝最優秀賞ほか15点

※主催＝大阪市仏教会／大阪青少年教化協議会

※後援＝全国青少年教化協議会ほか

##### C) よみうりランド仏舎利法要開催への協力

協力企業のよみうりランドが主催して毎年開催されている「仏舎利法要」に対して、職員が出仕し、同聖地公園にて法要を執り行った。

※日時＝平成24年5月25日（金）

※会場＝よみうりランド聖地公園（東京都稲城市）

#### ③加盟教団との活動提携、連携

加盟教団等からの要請に応じて講師を派遣し、講演・ワークショップを行った。又、必要に応じて資料の提供や情報交換を行い、加盟教団等の主催事業に参加・協力した。

A) 講師派遣

平成24年6月9日(土)	浄土宗保育協会埼玉支部研修会(埼玉県)
平成24年6月24日(日)	浄土宗保育協会九州地区研修会(大分県)
平成24年7月23日(月)	日本仏教保育協会夏期保育講習会(東京都)
平成24年8月3日(金)	全国仏教保育栃木大会(栃木県)
平成24年9月5日(水)	浄土宗報恩明照会電話相談研修会(東京都)
平成24年9月26日(水)	浄土宗報恩明照会電話相談研修会(東京都)
平成24年10月2日(火)	愛媛県今治市仏教会講習会(愛媛県)
平成24年10月3日(水)	曹洞宗愛媛県宗務所現職研修会(愛媛県)
平成24年10月9日(火)	真言宗智山派伝法院寺庭婦人会講習会(東京都)
平成24年11月13日(火)	真言宗智山派伝法院寺庭婦人会講習会(東京都)
平成24年11月25日(日)	宗教者災害支援連絡会主催「対話と音楽の集い」(東京都)
平成24年11月28日(水)	浄土宗報恩明照会電話相談研修会(東京都)
平成24年12月4日(水)	浄土宗報恩明照会電話相談研修会(東京都)

B) 加盟教団・関係諸団体主催式典等への参加及び協力

平成24年4月8日(日)	浄土宗保育協会音楽法要(東京都)
平成24年5月15日(火)	日本仏教保育協会公益社団法人移行記念祝賀会(東京都)
平成24年10月24日(水)	全日本仏教婦人連盟大会(東京都)
平成24年12月15日(土)	あずま幼稚園50周年記念祝賀会(埼玉県)
平成25年1月10日(木)	日蓮宗宗務院御用始め(東京都)
平成25年2月19日(火)	全日本仏教婦人連盟修正会(東京都)

(4) 教化活動広報事業

①インターネットによる情報収集及び発信

全青協の活動を広く一般に紹介するため、定期的にホームページの内容を更新して、各種の情報を提供した。又、平成24年8月にFacebookページを設立し、活動を広く一般に紹介した。

②青少年教化活動者の活動内容の紹介

(3) ネットワーク拡充事業①(A)「青少年教化活動者の活動内容の調査」に伴って取材した内容を、随時『ぴっぱら』誌に掲載し紹介した。又、ホームページ上でデータベースとして一般に公開した。

③公式ホームページの全面リニューアル準備(50周年記念事業)

全青協創立50周年金事業の一環として、公式ホームページの全面リニューアルに関する企画・デザイン等を行った。

## 2 公益活動推進事業

### (1) てらネットEN関連事業の実施

#### ①てらネットEN自助グループ「シンシア」の運営

A) 主にひきこもりやニートの当事者同士が集まり支えあう自助グループを毎月1回開催した。

※日 時＝平成24年4月18日／5月16日／6月13日／7月25日／8月22日／  
9月12日／10月24日／11月28日／12月12日／平成25年1月23  
日／2月20日／3月13日（原則毎月第4水曜日 午後2時～午後5時）

※会 場＝東京都港区・光明寺

※内 容＝フリートーク・坐禅・念仏など、参加者が主体的に内容を決めていく。

B) 「いっしょに年越し隊2012」の開催

ひきこもりやニートの当事者を支援する一環として、当事者の居場所から社会に踏み出そう  
としている若者たちの支援を目的に開催した。

※日 時＝平成24年12月12日（水）

※会 場＝光明寺（東京都港区）

※内 容＝境内の清掃、茶話会など。

#### ②てらネットEN自助グループ「シンシア」ブログの運営

ひきこもり当事者への情報発信、自助グループの活動内容、その他情報をスピーディーにかつ  
広く公開するため、シンシア専用のブログを作成し随時更新をした。

#### ③不登校・ひきこもり当事者の家族を対象とした親学セミナーの開催

「寺子屋ふぁみりあ―ひきこもり状態にある当事者の家族（親）のためのセミナー」

全国に100万人いるともいわれるひきこもり当事者。全青協はこれまでひきこもりや不登校  
の問題に取り組んできた。平成22年度からは、ひきこもり当事者の家族（親）に向けてのセ  
ミナーを始め、平成24年度は浄土真宗本願寺派「御同朋の社会をめざす運動」東京教区委員  
会との共催で開催した。セミナーでは現場経験が豊富で専門的な知識を有する講師を招いての  
講義、又、仏教的な体験を通じて精神的な安定を得られるように、読経や法話、慈悲の瞑想な  
どを行った。そして、参加者同士によるグループトークにより、相互の心情に共感することで  
各自の孤立感を軽減することもねらった。尚、講演の内容等を広く一般に発信し、この問題に  
ついての啓発を図ると共に、同様の問題を抱える家族（親）に向けて有益な情報を発信するた  
めに公式ホームページ及び公式ブログを開設している。

※日 時＝平成24年5月9日／6月6日／7月4日／8月1日／9月5日／10月3日／  
11月7日／12月5日／平成25年1月9日／2月6日／3月6日

※会 場＝築地本願寺（東京都中央区）

※主 催＝本財団、浄土真宗本願寺派「御同朋の社会をめざす運動」東京教区委員会

※講 師＝菱沼智明（こどもソーシャルワーカー、社会福祉士）、上條理恵（市川警察署上

席少年補導専門員)、和田重良(NPO法人くだけけ会主宰)、田中剛(雷門メンタルクリニック)、前田宥全(メンタルケア協会理事・僧侶)、畠中雅子(ファイナンシャルプランナー)、高塚雄介(明星大学人文学部心理学科教授)、成田智信(NPO法人カフェ・デラ・テラ理事・僧侶)、神仁(全青協主幹、臨床仏教研究所上席研究員)

※演題等=「ひきこもり」にもきっと意味がある、現代の青少年のこころ、一步踏み出した人たち、じぶんにあうネットワークづくり、家庭訪問による対話の記録～暴力を伴う事例・統合失調症の事例から～、あの時は、それから、今は…、ひきこもる若者たちの実態～その背景要因と対応策について～、高齢化するひきこもり家族のサバイバルプラン、絆をつむいで～悲しみを粗末にしないグリーフケアの実践からの学び～、聴くことから始まるコミュニケーション

#### ④「寺子屋ふぁみりあ」のブログ及びホームページの運営

ひきこもり状態にある当事者の家族向けのセミナー「寺子屋ふぁみりあ」の講演内容等を広く一般に発信し、この問題についての啓発を図ると共に、参加者以外の同じ問題を抱える家族(親)が共有し、問題の解決・軽減の一助となることを期してブログ及びホームページを運営した。

#### ⑤就労支援プログラムの実施

「ご縁つながり隊」の運営

ひきこもりやニートの当事者が社会参加するための足がかりとして、就労支援活動を行った。

※日 時=平成24年4月24日/6月22日/10月22日/11月20日/12月21日/平成25年2月25日(午後2時～午後5時)

※会 場=全青協事務局

※内 容=機関誌『ぴっばら』の発送作業など軽度の作業をしながら、当事者が他の当事者や本財団職員と会話を交わすことで、コミュニケーション能力及び作業スキルの向上を目指す。

#### ⑥相談窓口の設置・運営

A) 不登校やひきこもり、自死念慮など青少年やその家族が抱える悩みに対応すべく、全青協内に電話相談窓口を開設し、当事者や家族に対してカウンセリングを行った。又、併せて電話相談窓口の開設を希望する青年僧をOJT形式の研修方法により育成した。

B) こころの相談室の運営

全青協内に不登校や非行、ひきこもり、精神疾患などの悩みを抱える当事者やその家族を対象とした来所相談室を開設。通常の電話相談では対応できない場合などに随時面接を行った。

#### ⑦「てらネットEN」世話人会および連絡会議の開催

平成24年度てらネットEN連絡会議を開催し、てらネットENに加盟する寺院・団体の代表者が参加した。又、外部講師を招き子どもを巡る情報の把握に努めた。

※日 時＝平成24年11月19日（月）

※会 場＝曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※議 題＝てらネットEN加盟各寺院・団体の活動の現況報告及び今後の活動の方向について

※講 師＝太田久美（認定NPO法人チャイルドライン支援センター代表理事）

#### ⑧てらネットENパンフレット・小冊子の配布

てらネットENでは、ひきこもりや不登校について当事者および家族からの相談を受け付けてきた。より多くのひきこもりや不登校の問題を抱える当事者および家族に向けての広報のためのパンフレットと、ひきこもりの問題について正しい理解がなされて支援の輪が広がり、寺院などにおいては当事者や家族からの相談に対して適切な対応をするための一助となり得ることを期して、ひきこもりについての基礎的な知識や対処法などを掲載した小冊子を加盟教団・青少協・不登校ひきこもり支援団体等の要請に応じて配布した。

### （2）「仏教子ども家庭支援センター（仮称）」開設へ向けての調査・企画立案

創立50周年記念事業の一環として、不登校やひきこもり、自死念慮、児童虐待、DV、発達障害他、青少幼年や親等が直面する多様な問題に対して仏教情操教育をベースに当事者をサポートする支援センターの開設に向けて調査及び企画立案を行った。

### （3）海外子ども支援・国際交流の推進

#### ①国際子ども支援プログラムの運営（ぴっぱら国際児童基金）

社団法人全日本仏教婦人連盟と提携し、ワラナシ（ベナレス）等でストリートチルドレンやスラムで暮らす子どもたちを対象に、チャイルドサポーター（里親）制度の運営を行った。又、サルナートにおける被虐待児童のシェルターの運営、校舎の建設他、北部ラダックにおいても、教育を受けることのできない遊牧民の子どもたち等を対象に、教育・福祉・医療の面で支援を行った。これらの内容をニューズレターとしてまとめた「Pippala International」を平成25年2月1日に発行し、全青協会員はじめ各方面に事業への協力を呼びかけた。

#### ②スリランカ子ども支援調査

スリランカの国際NGOサルボダヤ会と協働し、スリランカにおける経済的貧困層にある児童、被虐待児童、ティーンエイジマザーなどに対する支援の開始を目指し、現地調査及び関係者との会議を行った。

※調査期日＝平成24年10月29日（月）～11月8日（木）

※調査・訪問先＝サルボダヤ会本部、スワセタ本部、ナショナル・チャイルド・プロテクション・オーソリティー（NCPA）、全スリランカ仏教会（ACBC）、スリランカ仏教青年会（YMBA）他

#### (4) 浄土宗報恩明照会「命とこころの電話相談室」開設事業協力

浄土宗報恩明照会が「命とこころの電話相談室」を開設するにあたり、企画、運営、研修に関して協力を行った。特に研修に関しては、講座の内容および講師の選定、全青協スタッフの出講を含めて全面的に協力した。

※開設日程＝平成24年4月2日（月）～（以降毎週月曜日午前10時～午後4時）

※会場＝東京都港区・明照会館内

### 3 臨床仏教研究所運営事業

#### (1) 一般人を対象とした宗教や寺院に対する意識調査の分析

平成22年3月に実施した「一般人の寺院・葬儀等に関する意識調査」について、心理学・社会的な観点から定例研究会において分析作業を行った。

#### (2) 「仏教者の社会貢献を考えるつどい」シンポジウム

僧侶の社会参加を啓蒙し、寺院の公益性を問い直す機運が高まりを見せるなか、個々の仏教者の活動事例から方途を学びとり、仏教者の社会貢献活動として何ができるのかを考え、今後の取り組みにつなげるためのステップとなる集いとして、大正大学の協力のもと企画・運営し、開催をした。社会活動を実践する僧侶による活動報告とパネルディスカッションを行った。又、9.11世界同時多発テロ、東日本大震災追悼（黙祷）を併せて執り行った。

※日時＝平成24年9月11日（火曜日）

※会場＝大正大学1号館大会議室

※パネリスト＝谷山洋三（東北大学准教授・グリーンケア論）、藤尾聡允（自死・自殺に向き合う僧侶の会副代表・自死問題）、鈴木行賢（天台宗観音寺住職・地域コミュニティ再生）、吉水岳彦（ひとさじの会事務局長・貧困問題）

※コーディネーター＝神 仁（全青協主幹・臨床仏教研究所上席研究員）

※内容＝パネリスト活動報告、パネルディスカッション

主題：仏教者による社会貢献のあり方とその可能性、仏教者によるこころのケアのあり方（被災者支援を含む）、個々の活動を踏まえ、仏教チャプレン（臨床仏教師）の、日本における可能性

※協力＝大正大学

※参加者＝約100名

#### (3) 台湾の臨床仏教者の活動に学ぶ集い

臨床仏教師（臨床仏教カウンセラー）資格認定に向けて歩み出した日本社会の背景を踏まえ、すでに臨床仏教者が公的な領域で活躍する台湾より講師を招き、仏教の価値観と伝統文化に

基づいたケアのあり方に関する学習会を行った。

※日 時＝平成24年11月11日（日曜日）

※会 場＝東京グランドホテル（東京都港区）

※講 師＝法鼓山仏教大学学長・釋惠敏（Huimin Bhiksu）氏

東京大学インド哲学仏教学博士号取得。1995年、台湾で最初の公立緩和ケア病棟となる、国立台湾大学付属病院ホスピスにおいて、臨床仏教チャプレン養成プログラム創始責任者となる。2007年に開設された臨床仏教学協会の設立メンバーにも加わり、以降、ホスピスやターミナルケアにおける僧侶・尼僧の養成を行ってきている。

※参加者＝約20名

#### （4）臨床仏教公開講座開講準備（50周年記念事業）

臨床仏教師養成講座の座学課程として位置づけた公開講座の開催にむけ、企画・広報を行った。

※講座名＝臨床仏教公開講座

一仏教者は現代社会のなかで人びとのところにどのように寄り添うことができるのか一

※日 時＝平成25年5月8日～7月10日までの、毎週水曜日午後6時半より8時まで（全10回）。初回のみ午後6時半より8時半までの120分間の開講記念シンポジウムとする。

※内 容＝全10回の講座のうち、第1回・第10回の2回は概論講座、第2回～第9回の8回は各論講座とする。さらに、第1回目については記念シンポジウム形式をとり現代社会における臨床仏教のあり方について学ぶ。各論講座では「貧困」「ターミナルケア」「自死」「ニート&ひきこもり」など、現代日本社会が抱える問題をテーマに、仏教者がそこにどのように取り組むのかを学ぶ講座とする。

※会 場＝東京大学仏教青年会会館ホール

※講 師＝東京大学教員、臨床仏教研究所理事・研究員、社会的・公益的な活動を行う僧侶他

#### （5）臨床仏教師（臨床仏教カウンセラー）資格認定制度設立へ向けての調査（50周年記念事業）

創立50周年事業の一環として、教育・福祉・医療などの臨床現場において、仏教精神に基づいた心理的・精神的ケアを行うことのできる臨床仏教カウンセラーの資格制度設立へ向けた調査・準備を進めている。

#### （6）企業社員研修会の開催協力

協力企業の要請に応じ、仏教精神に基づく実践形式の社員研修会を開催した。

※日 時＝平成25年1月28日・29日（月・火）

※会 場＝大本山建長寺（神奈川県鎌倉市）

※内 容＝読経・法話・坐禅・写経・作務・マネージメント（講義）・傾聴ワークショップ・



シェアリング他

※講師＝建長寺スタッフ・全青協スタッフ

※参加者＝よみうりランド中堅社員他12名

## 4 出版事業

### (1) 機関誌『ぴっばら』の発行状況

#### ①月別発行部数

月	部数	月	部数	月	部数
5-6	6,400	7-8	8,300	9-10	7,300
11-12	6,200	1-2	6,600	3-4	6,900

年間発行部数 41,700部

平均発行部数 6,950部

#### ②『ぴっばら』「特集」テーマ一覧

月	テーマ
5-6	さまよえる若者のこころ ―学生相談の現場から
7-8	“メディア漬け”と子どもの危機 ―夏休みを前に
9-10	「生まれてきてよかった」と思えるように ―社会的養護のもとを巣立つ子どもたち
11-12	会って、語れる、お坊さんに！ ―仏教者の社会貢献を考える集い
1-2	大切な人が変わってしまった！ ―若者を「カルト」に向かわせないために
3-4	伝わっていますか？自分の気持ち ―若者のためのコミュニケーション入門

### (2) 書籍・教材発行と調査及び研究、広報

青少年向けの各種教材を発行。花まつりぬりえ、花まつりシール、風船、ポスター及び甘茶クッキーなどを頒布した。

#### ①教材の発行

##### A) 既存教材の増刷

※花まつり絵はがき（解説入り）＝6,000枚

※花まつりポスター＝2,000枚

※花まつり教材案内＝7,000部

#### ②教材等の製作

##### A) 甘茶クッキー

甘茶クッキーを「おかし屋ぱれっと」（障がい者の自立支援を行うNPO法人）と共同開発し

頒布した。

## II 表彰事業（公益目的事業2）

### （1）『正力松太郎賞』の実施

#### ①「第36回正力松太郎賞」の表彰

※表彰式＝平成24年5月31日（木）

※会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※受賞者〔本賞〕＝・杉の子こども会

（代表・角出好隆師／浄土宗長泉寺住職／三重県伊賀市）

・一般社団法人 水月会

（代表・本多隆法師／真言宗智山派来福寺住職／東京都品川区）

〔青年奨励賞〕＝・社会慈業委員会 ひとさじの会

（代表・渡部教道師／浄土宗安養寺副住職／東京都江戸川区）

#### ②「第37回正力松太郎賞」及び「第37回正力松太郎賞特別賞震災支援功労賞」の受賞者決定

第37回は一昨年に発生した東日本大震災によって大きな被害が発生した宮城県、岩手県、福島県をはじめとする各県被災地域、及び、被災県の県外避難者が居住する地域において、仏教精神にもとづき支援活動に尽力している個人又は団体を奨励するべく、特別賞として震災支援功労賞を設けた。

※公募期間＝平成24年9月～12月15日

※選考会日時＝平成25年3月13日（水）

※選考会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※受賞者＝本賞2件、青年奨励賞1件、震災支援功労賞6件が下記のように決定。

【本賞】・今里晃玄（浄土真宗本願寺派教専寺住職／香川県坂出市）

・宇野全匡（曹洞宗地福寺住職／山形県大石田町）

【青年奨励賞】・大河内大博（浄土宗願生寺副住職／大阪府大阪市）

【震災支援功労賞】・石原 顕正

・スジャータプロジェクト（代表・渡辺光成）

・上伊那仏教会青年部（代表・岸 浩成）

・浜〇かふえ（代表・柳内悦大）

・Terra Net（代表・堀 眞哲）

・Cafe de Monk（代表・金田諦應）

※後援＝読売新聞社、日本テレビ放送網、よみうりランド、報知新聞社

※表彰式＝平成25年11月（予定）

※会場＝東京都千代田区・帝国ホテル

### （2）表彰の実施

青少年に関する活動を行っている各種仏教団体等主催表彰事業への協力

- ・曹洞宗主催「第45回青少年書道展」を後援、全青協賞を授与。
- ・大正大学書道研究部主催「第60回全国書道展」を後援、全青協賞を授与。
- ・炎天寺一茶まつり委員会主催「平成24年度全国小中学生俳句大会」を後援、全青協賞を授与。

### III 災害支援事業（公益目的事業3）

国内外の自然災害に際して緊急支援事業及び継続的な支援プロジェクトを行った。又、平成23年3月～平成24年7月までに行った東日本大震災関連事業内容をまとめた「東日本大震災支援活動中間報告書」を作成し、関係各所に配布した。

#### （1）東日本大震災緊急・復興支援事業

##### ①被災児童を対象とするトラウマケア活動

仮設住宅各所や石巻市立保育所等で花まつりをはじめ子ども会を開催しながら、被災児童の心の状態の把握に努め、遊びやレクリエーションを通じたトラウマケア活動に取り組んだ。

##### ②高齢者の孤独死・自死防止活動

被災地の仮設住宅を定期的に巡回しながら、集会所や談話室でハーブティーサロンや生け花会などを開催、又スタッフによる歌のコンサート、バルーンアートなどの催し物を行い、孤立しがちな高齢者の心身のケアに継続的に取り組んだ。

##### ③「福島子ども妊産婦支援プロジェクト」推進

加盟する全国の寺院において、福島原発事故による放射線の影響が懸念されている地域に居住する、中学生以下の子どもと妊産婦の方を随時受入れ、お寺での保養をしていただくプロジェクトを行った。

##### ④「あおぞら奨学基金」の設立・運営（50周年記念事業）

東日本大震災で就学困難になった高校生のための給付型奨学金支給事業として、杉浦ブラムチャリヤ、全日本仏教婦人連盟と協働して「あおぞら奨学基金」を設立。基金事務局として運営を行った。平成24年度は宮城県石巻市の高校生21名を対象に、月々1万円の奨学金を給付した。併せて、奨学基金パンフレットを作成し、奨学生を支援するサポーターを広く募った。

##### ⑤被災高校生就学進路支援

東日本大震災によるストレスや進路への不安から、対人関係を築く際に困難を抱えている高

校生が、進学や就職、日常生活の場面において少しでも不安を軽減できるよう、コミュニケーションスキルアップ講座の開催と手引書「コミュニケーション・ガイドブック」の作成及び配布を行った。（財団法人JKA（競輪）の平成24年度東日本大震災復興支援（第2次）助成事業）

#### ⑥被災地における仮設図書館運営支援

社団法人南太平洋友好協会（RACK）の支援により建設された岩手県陸前高田市広田の仮設団地に設置された仮設図書館の企画運営に対する協力を行った。

## IV 墨蹟事業（収益事業1）

### （1）第45回現代名僧墨蹟展の開催

全国3会場で開催。現代仏教界を代表する各宗派管長、大本山貫首、布教師をはじめ、本会の活動趣旨に賛同していただく文化人、著名人など約200名の協力を得て、直筆の掛け軸、額、色紙、短冊などを展示、希望者に頒布し、収益金を東日本大震災の被災地復興と青少年の支援に充てた。併せて、会場で本会発行の機関誌『びっばら』を配布し、本会活動の広報、会員拡充に努めた。又、墨蹟法話を行い、墨蹟の意義の理解と仏教宣布・青少年教化の普及に努めた。

※開催会場＝東京上野会場 松坂屋上野店 平成24年5月30日（水）～6月5日（火）  
東京銀座会場 ギャラリーノア 平成24年12月7日（金）～12月9日（日）  
名古屋会場 松坂屋名古屋店 平成25年1月30日（水）～2月5日（火）

※共催団体＝読売新聞中部支社（開催会場により異なる）

※後援団体＝読売新聞社、報知新聞社、日本テレビ放送網、中京テレビ放送（開催会場により異なる）

※推薦団体＝全日本仏教会、東京都仏教連合会（開催会場により異なる）

## V 管理

### （1）組織の充実・拡充

理事会及び評議員会、青少協代表者会議の席上、会員拡充への協力を依頼した。又、各宗派の教化研修会等において全青協の資料を配布し入会案内を行った。

会員数は平成25年3月末日現在、977名。内訳は「会員」436名、「活動会員」286名、「賛助会員」226名、「特別賛助会員」29名。

### （2）公益認定申請

平成20年12月1日に施行されたいわゆる公益法人改革関連3法のもとで、平成25年4月

に公益認定申請を行うための準備をした。翌期の10月に移行登記をする予定である。

### (3) 創立50周年記念事業

平成24年に財団設立50周年を迎えるに当たり、記念事業委員会を設立し、記念事業の企画・運営などを行った。

※ 記念事業委員＝渡邊宝陽、福田亮成、石川到覚、釜田隆文、齋藤昭俊

記念事業内容＝①被災地子ども支援基金「あおぞら奨学基金」の設立

②臨床仏教公開連続講座の開設

③創立50周年記念フォーラム／教化事例発表大会の開催

④創立50周年記念誌出版

⑤公式ホームページの全面リニューアル

⑥創立50周年記念祝賀会及び記念表彰式の開催

⑦仏教子ども家庭支援センター設立・運営

⑧臨床仏教師（臨床仏教カウンセラー）資格認定制度設立